

前年度の改善方策について実行した改善結果

令和7年3月

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、柔軟な考え方ができ、主体的に課題を解決し、相手を認め互いのよさを尊重し、心身ともに健康で、富士の学び舎代沢小学校を愛し、「自分で、進んで、負けないで」を実践できる児童の育成をめざし、次の教育目標を設定する。

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子

(2) 学校の重点目標

「みんなの子どもをみんなで育てる みんなの学校をみんなで創る」を合言葉に学校・家庭・地域が一体となり、急激に変化する社会の中で、児童一人一人が社会の担い手として自ら課題に向き合い、判断し行動して、それぞれが思い描く未来の実現を図ろうとする児童の育成を目指す。¥

◎異学年交流や舟形交流、地域との交流などを通して「人と関わる力」等の 非認知的能力を育むとともに、自分の目標や役割に向かって、自主的に活動できる児童を育てる「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。

◎教員のICT機器の効果的な活用力を向上させ、学びのデータを基に、児童 一人一人に応じた多様な学びの機会を提供することで「個別最適な学び」の充実を図る。また「せたがや探究的な学び」や体験的な活動を通した「協働的な学び」も充実しながら、授業改善を推進する。

◎学校・学年・学級に支持的風土を育み、児童に関わる全ての教職員の情報共有を基に個性や能力、発達特性等の多様性を理解し、多角的な児童理解に努め、いじめ・不登校・障害等の特別な配慮を必要とする児童への指導を充実する。

◎学校支援コーディネーターと連携し、地域教育力を積極的に活用する。保護者や地域の人材、専門家等によるゲストティーチャーを授業に招聘して、出前授業を数多く取り入れ、地域とともに児童を育て、地域が参画する学校づくりを推進する。

◎学校全体で組織的なカリキュラムマネジメントを行い、教師の負担過多にならない教育課程を実施し、児童にとって有益な教育活動を推進する。

(3) 改善結果

①代沢スタディ・スタイルの質の向上を図り、児童がAgencyを発揮し、語り合う授業を目指す。児童自らが課題をもち主体的・協働的に解決する学習の展開を充実し、児童が学ぶことや協働することの意義を実感できるようにし「自分で考え、伝えられる子」の育成を図る。

- ・「教材研究」、「子どもに任せるところ」「主体的に学んでいる姿」を明らかにして授業準備をする。
- ・学年会、専科会を生かす。また、他の先生の授業を観るようにする。
- ・「みんなで使えるもの」を共有することで合理化し、時間の確保及び仕事の効率化を図る。

○代沢スタディ・スタイルの継続により、児童がAgencyを発揮し、語り合う授業について、教員の理解が更に深まり、児童も教員も更に手ごたえを感じられるようになってきた。

○タブレット活用については、昨年度と同様に、学習の進捗管理に有効活用できていたが、集団思考を深める活用の在り方については課題が残った。

②「代沢しぐさ」を基盤に、授業や生活のあらゆる場面で、相手の気持ちや考えを大切にすることにより、基本的な生活習慣や規範意識を育成するとともに、人権教育「ひともしぐさも大切に～聞いて 聴いて 考える～」を推進し、多様性を理解し尊重する心、偏見や差別をしない態度を育てる。

- ・授業や生活のあらゆる場面で、相手の気持ちや考えを大切にすることを育む。また、自分の気持ちや考えを安心して伝えることができるあたたかな環境を醸成していく。
- ・聞いてたずね、聴いて受け止め、考えを深めていくことで人も自分も大切にすることを育てる。

・代沢しぐさ【あいさつ・話の聴き方・伝え方（ごめんなさい・ありがとう）】の定着を図る。

○いじめ未然防止や早期対応について。情報共有を行う機会を毎月設けたことや、担任だけが聞き取りをするのではなく、校内体制を整えてきた。

○学校での過ごし方やルールについては意識できるようになってきているが、特にきまりについては都度確認にならないように、今後も、組織的に計画的に指導していくことが課題である。

③異学年交流や舟形交流、地域との交流などを通し「人とうまく関わる力」等の非認知的能力を高めるとともに、キャリア教育「自分の目標や役割に向かって、自主的に活動できる児童を育もう～書いて、見つめて、価値づけよう～」を推進し実感の伴った学習や取組の充実を図る。

・児童が目標を意識し、前向きに自信をもって生活できるようにする。そのために、キャリアパスポート、めあてカードなどを活用していく。また、学校・学年での環境づくりを進め、教師と児童の対話的なかわりをもつ。

・学級活動やせせらぎ班活動などにおいて、役割を明確にし、責任感をもたせる。そのために当番、係活動、せせらぎ班活動など、その活動自体の意義役割を確認し、その中でひとりひとりが自分の役割を意識して活動できるようにする。

・各種取り組みにおける仕組みを見直し、めあてと振り返りのサイクルを確立する。

○昨年度に引き続き、キャリアパスポートやめあてカードを積極的に活用することで、児童が目標をもって学校生活を送っていけるように取り組んだ。

○低学年のキャリアパスポートの運用や、パスポートを見返す時間の設定、パスポートを元に友達と話し合う取り組みの実施など、活用の形について具体的に考えることができた。

④目的意識をもったＩＣＴ機器の活用で、児童の学びの質を高める。子どもも保護者も安心できる「スピーディー＆確実、快適」なＩＣＴの効果的な活用を図っていく。

・ロイロノートを使った共有財産の構築を行い、より効率的な教材研究の実現を図る。

・クラスの友達の意見を多面的に見て、集団思考を深めていくための共同作業をＩＣＴや実際の話し合い等で行い、児童双方向のかかわりに深みをもたせるようにする。

・一枚ポートフォリオの作成と実践を継続し、タブレットを使ったクリアな思考の整理や、学習の達成感を味わわせる。

○アンケートの回収やボランティア募集、学校便りの配信等の要項は、「すぐる配信」等で素早く確実に、すべてのご家庭に行き届くようにできた。

○ペーパーレスできることがまだまだ多分にあるため、一つ一つ精査していき、段階的に推進することが課題である。

⑤生活科・社会科の校内研究を柱に「共感・協働する学び」を基盤とする「探究のサイクル」を確立した各教科指導を充実し、「せたがや探究的な学び」を推進する。加えて「代沢小 学習の基本」を見直し、教職員が同じ意識をもって学習指導にあたり、子どもたちの基礎・基本の力を伸ばしていく。

・子どもたちの力をつける授業を行うために、学年で力を合わせた学習指導の工夫、教材研究ができるよう環境を整える。

・学力調査の結果を生かし、授業改善を図る。調査ごとに結果を分析し、課題を共有して授業に生かす。

・学習習得確認会議の内容を生かし、「学び舎としての指導」を明らかにして指導にあたる。

・代沢小として「自主性」を育むための取組を検討し、共有する。

○学習習得確認会議の結果の分析を通して、代沢小としてどんなことを大切にして指導にあたるか、共通理解を図ることができた。

○代沢小の宿題について共通理解を図ったが、「自主性」を育む取組について、昨年度に引き続いて課題が残った。

⑥健やかな身体づくりをめざし、運動に親しませる機会を大切にする。運動量を確保することで、児童が自らの健康を考え、すすんで運動しようとする態度を育むとともに、望ましい食生活を営もうとする態度を育てる。

- ・効率的に学校のことを伝える、発信する工夫をしていく。
- ・重点目標を意識した指導を行う。学級の様子を保護者会で伝え、保護者が目にする機会を増やす。そして、地域、家庭と力を合わせて子どもを育む意識をもつ。
- ・運動に親しませる機会を大切にし、運動量を確保する。

○ランランタイム（体力向上の取組）では校庭・体育館を使用するなど、運動に親しませる機会を大切にする事により、昨年度に引き続き、運動量を確保することができた。

○「情報の発信」「家庭、地域等との連携」については、昨年度に引き続いて課題が残った。